

# 国内ガイド本 通訳案内士

日本で長く続いた新型コロナウイルス感染症拡大に伴う水際対策が10月中旬、大幅に緩和され、インバウンド(訪日客)が戻りつつある。名所案内に欠かせない「全国通訳案内士」の一人で神戸市中央区の武村陽子さん(56)は、入国制限で仕

神戸の武村さん

事が激減していた間、「通訳ガイドと行  
く、日本世界遺産と歴史の旅」を執筆し、  
観光案内の需要増が想定される中、出版  
にこぎつけた。実践で役立ててほしいと  
呼びかけている。(高田康夫)

## 77ス。ポット、紹介の仕方解説

長年、欧州などへの旅行添乗員として働いてきた武村さんは5年前から全国通訳案内士としても、インバウンドを案内してきた。東京五輪が開導予定だった2020年も、半年先まで仕事が入らなかった。

ところがコロナ禍に入り、4月以降はほとんどがキャンセルになり、添乗員としての仕事もなくなっていた。これまで海外旅行についての本を14冊出版した経験がある武村さん。仕事がない期間を有効に使おうと、国内ガイドのことを初めて本にまとめることにした。

「通訳ガイドと行く」は、日本観光の「ゴールデンルート」と呼ばれる2週間ほどの旅を想定した。関西国際空港から大阪、奈良、京都、姫路、広島を回り、その後、飛騨高山と

関東方面を訪ねてから羽田空港へ向かう。その間のお薦めスポット7カ所の特徴や歴史、逸話などについて、どんな言葉で説明してきたかを丁寧に解説する。兵庫県内では、いずれも姫路市の世界文化遺産・国宝姫路城と書写山田教寺が人気だといっている。

国内観光地の案内内容をまとめた「通訳ガイドと行く 日本世界遺産と歴史の旅」を手にする武村陽子さん 神戸市中央区



10月中旬以降、仕事が入り始めていたといい、武村さんは「少しずつでも外国観光客に戻ってきてほしい」と期待。「本を読んでもらえば外国人が喜ぶ観光地が分かる」と胸を張る。

今回の著書では神戸観光に触れていないが、「この本を参考に、神戸の酒蔵や

関空

大阪 - 奈良 - 京都 - 姫路 - 広島 - 飛騨高山 - 関東

羽田